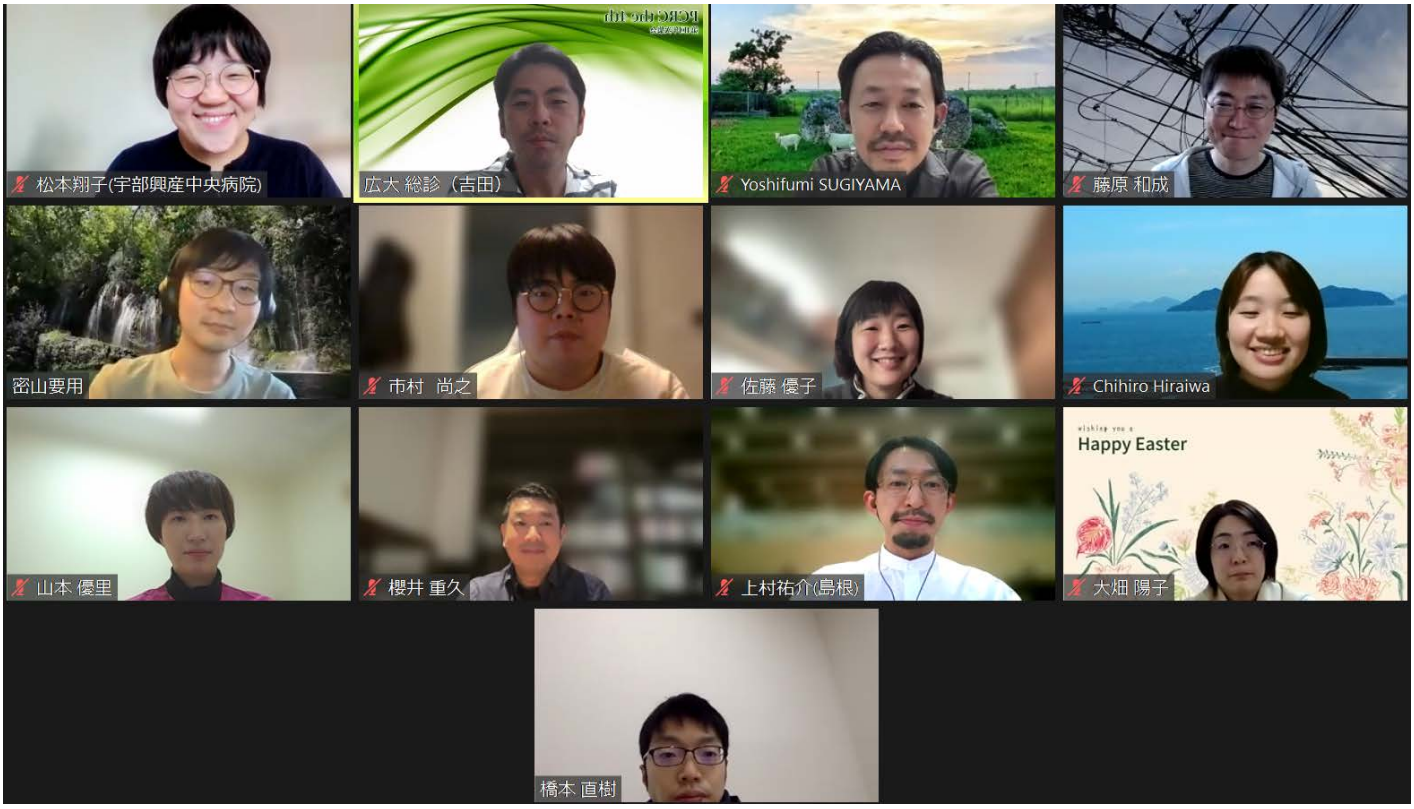
日本プライマリ・ケア連合学会
中国ブロック支部

発行人：松下　明
〒708-1323
岡山県勝田郡奈義町豊沢 292-1
社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター
奈義ファミリークリニック
Tel：086-836-3012

【中国ブロック支部 Practice Based Research Network（PBRN）開催報告】

2022 年 11 月 20 日、2023 年 3 月 4 日にオンラインでイベントを開催しました。2022 年 11 月 20 日は「あなたの金の卵育てます　～日々の臨床疑問を研究テーマにしませんか～」をタイトルに参加者の持っている臨床上の疑問を持ち寄り、研究疑問としてどのような形で研究につなげていけるかを検討しました。講師は孫大輔（鳥取大学）、金子惇（横浜市立大学）、宮森大輔（広島大学）、玉野井徹彦（山口大学）、吉田秀平（広島大学）で行い、参加者の持ってきた疑問を FINER の基準に基づいて、臨床研究のデザインについての案を出し、ディスカッションを行いました。2023 年 3 月 4 日は「学術的ビフォーアフター！～この地域活動、研究になりますか？～」と題し、広島県福山市で実際に始まった地域活動を学術的に報告していくにはどのような形が考えられるかを検討しました。講師は、平岩千尋（藤井病院）、密山要用（東京大学）、杉山佳史（東京慈恵会医科大学）、吉田秀平（広島大学）がつとめ、質的研究・量的研究の立場からこれまでの事例の紹介とともに、今回の地域活動にどうあてはめていけるかを話し合いました。2023 年度も、同様に研究に関する企画を行っていく予定ですが、より専攻医にフォーカスをあてた内容を取り入れていく予定です。状況が許せばオフラインでの開催も検討していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



【m-HANDS 2022 第 5-7 回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告
出雲家庭医療学センター大曲診療所　藤原和成
広島大学病院 総合内科・総合診療科　小林知貴
岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック　松下明

【m-HANDS-FDF】
（modified - Home and Away Nine DayS – Faculty Development Fellowship）
7 年間にわたって継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年度もオンライン開催となりました。
8 月から 3 月まで、月に 1 回全 8 回のコースとして実施しています。
今年度も、JPCA-ML などで募集して中国地方の指導医 3 名が参加中です。3 名にはチームとして様々な課題に取り組んでもらっています。
以下に第 1 回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。
2023 年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉
中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす
〈対象〉
・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医
〈アウトカム〉
Core Competence：Adult Educator(成人学習支援者)
学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる
教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる
学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る
机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる
総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる
ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

第 5 回 オンライン開催　2022 年 12 月 17 日（土）

【模擬ティーチング】
今回は初期研修医に対して技術面の模擬ティーチングを実施した。先行文献を検索すると、検査の医学的解釈をするより、患者の問題点を整理するなどの方が自信になりやすいという報告があった。テーマの扱いやすさなどからも「“かきかえ”を使いこなそう」というテーマを設定した。前回同様カリキュラム開発シートに沿って準備を進めた。前回からの学びを踏まえ、スキャフォールディングを意識したセッションとし、カリキュラム評価として事後アンケートを実施し、有用度・関連度・自己効力感を評価することとした（この 3 つの項目が高得点だと transfer しやすい）。後日時間をおいての聞き取り調査も検討してみたい（より正確なカリキュラム評価になりうる？）。今回のセッションではタイムマネジメントに課題があり、また事前のニーズ把握や形成的・統括的評価法についてもより工夫ができるのではないかと感じた。今回感じた課題を次回のセッションで昇華させることが Next Step である。（陣内聡太郎）

【学習者評価】
学習者評価の事前学習を土台として、「評価表作成ワーク」を行った。子どもの絵を診療所に飾るための評価表を作成した。各グループで評価軸を作成した後、グループ間で議論し、子どもの絵にどんな価値を求めるのか、信頼性や妥当性について検討した。作成した評価表で実際に評価し、多くの参加者が同じ絵を高く評価しており、信頼性の高い評価表ができたように思えた。その後で再度ディスカッションし、子どもの絵には多種多様の良さがあり、それらを同じ評価軸で評価するため、妥当性の高い評価をすることは難しいと感じた。今回は誤差要因がないように思われるが、それぞれの子どもの性格などを知っていたりすると、誤差要因になりうると考えた。（藤原匠平）

第６回 オンライン開催　2023 年 1 月 21 日（土）

【ビデオレビュー】
受講生２人のフィードバックの様子のレビューを行った。柔らかい雰囲気作りや相槌を大きくすると相手の安心に繋がる、研修医の発言をうまく促すことがよいと感じた。自己評価→出来た点→改善点というフレームワークを用いた振り返りをうまく使う、5micro skills を使用し、救急の場でも時間をかけすぎず振り返りを行うことができる、今は疾患の話、今はマネジメントの話など研修医と話題を確認しながら振り返りを行うとよい、など認識できた。研修医がフィードバックを通して自己省察がうまくできるようになるという視点もあると感じた。（植本真由）

【評価計画の作成】
医学教育では学習者中心のアウトカム基盤型教育が重要視されている。コンピテンスと呼ばれる多面的な能力が医師に求められることから、医学教育のアウトカムはコンピテンスの修得と考えられている。
事前課題、当日ワークではブループリントの作成を通して評価計画の作成について学んだ。コンピテンスの設定から行い、MCQ、OSCE、MiniCEX、ポートフォリオ、360 度評価などの評価方法などを用い、形成的評価、総括的評価を計画した。
ワークを通じて、そもそも設定したコンピテンスは妥当なのか、計画した評価法の信頼性、妥当性はどうなのか、マンパワー、コストなどを含めた実現可能性はどうかなど、目を向けるべきことは非常に多い事について改めて気づくことができた。（陣内聡太郎）

【カリキュラム評価】
僻地医療の研修が義務付けられ、新しくカリキュラムを作成したため、研修実施後の評価を行った。ステークホルダーを挙げ、誰からみた視点で評価するのかを考えた。どのような形で評価するのか、方略を練った。そして、誰が行うのかを考えた。学習者チームは研修医視点での自己評価や労力に着目し、指導医チームは指導医や多職種などが評価する労力に着目した。評価するのは大切なことだが、労力がかかると認識した。妥当性や信頼性を担保しないと意義が薄れるので、インパクトのある評価を事前に考察することが重要と考えた。（藤原匠平）

【プロフェッショナリズムと態度教育】
プロフェッショナリズムとは、以前は暗黙のうちに徐々に身に着けるものと考えられていたが、これからは明示的に教え、学んでいく必要がある。医師のプロフェッショナリズムについて①アンプロフェッショナルな行為をしない、②常に高みを目指す、とういう２点を確認し、当日はプロフェッショナルだと思った人やアンプロフェッショナルな行いをみた時どうしたか、など参加者の話を共有し、SEA を用いて振り返りを行った。自

分がアンプロフェッショナルな行動をとってしまいそうな時どうするか、なども意見交換を行った。自分でも気付いていなかった、もしくは見ないふりをしていたアンプロフェッショナルな行動に気付かされた。（植本真由）

第 7 回 オンライン開催　2023 年 2 月 18 日（土）

【模擬ティーチング】
「否定的な感情のマネジメント」という題材で態度領域の模擬ティーチングを担当した。グループディスカッションで学習者それぞれの経験を構造化し、共有するという形式で実施した。セッションの目標として、自分の否定的感情をメタ認知してもらう、他者の経験から新しい価値観を見出すという点を目標にしていた。とても意欲的な学習者ばかりで、ディスカッションは円滑に進み、学習者の感想を聞くと概ね目標は達成できていたようだったが、振り返ると、心理的な安全性については事前にディスカッションしていなかったり、発言がなかった場合のトラブルシューティングなど、方略についてより吟味が必要な点も見つかった。
３回目の模擬ティーチングであったが、回数を重ねるごとに試行錯誤することが増え、フェロー間で話し合う時間も長くなり、学びがどんどん深くなっていっているなと感じる。（陣内聡太郎）

【修了課題発表】
HANDS の修了課題として、assessment と curriculum development の能力を評価するため、各々の医療機関で実用できる教育計画書を作成した。オンライン診療研修の新規立ち上げや既存の院内 BLS 講習会のアップデート、大学の実習生を受け入れる際の実習カリキュラムの作成を行った。各々の医療機関ならではの医療資源があり、どれも興味深いものだった。新規カリキュラムには初期研修医にどんなニーズがあるのか。BLS 講習会の参加者がいずれインストラクターとなり、重要な資源となる仕組みを作れるか。既存の実習に意味を持たせるため、ステークホルダーとどのように関係を作るのか。多方面から様々なアイデアが出て、より実現可能性が上がったように感じた。（藤原匠平）

第 8 回は 2023 年 3 月 18 日（土）を予定しています